

郷土を愛し、

その復興・発展を支える

人材を育成するために



● ● ●

「いわての 復興教育」 プログラム

Reconstruction Education
Program of Iwate

いきる
Live
かかわる
Involve
そなえる
Prepare

第3版

発行／平成31年3月

岩手県教育委員会



目次 CONTENTS

「いわての復興教育」	01
「いわての復興教育」とは	02
「いわての復興教育」の意義	03
「いわての復興教育」の成果	04・05
「いわての復興教育」の推進ポイント	06
「いわての復興教育」の教育的価値	07
教育的価値と具体の21項目一覧表	08・09
学校経営への位置付け・組み立て方	10・11
「いわての復興教育」の大切な視点	12
「いわての復興教育」の指導構想	13
地域とのつながりの必要性	14
「いわての復興教育」のあしあと	15
「いわての復興教育」の可能性	16

改訂にあたって

「いわての復興教育」プログラム(改訂版)を見直し、
内容の整合性や表記の統一などを行いました。
主な改訂は、次のとおりです。

- 「いわての復興教育」の**目的、教育的価値**を整理しました。
- 「いわての復興教育」の**教育的価値一覧表**を見直しました。
- 「いわての復興教育」の**成果**をまとめました。
- 「いわての復興教育」の**可能性**を示しました。

活用について

「いわての復興教育」は、各学校の実情を踏まえながら
学校独自のアプローチを検討して取り組みます。
本冊子は、各学校が「いわての復興教育」を推進する際の指針として活用ください。
また、学校、家庭・地域、関係機関・団体等が
「いわての復興教育」の理念を共有する際の資料として活用ください。

いわての復興教育

平成23年3月11日(金)

この日、全県土を包んだ大きな悲しみ、光の見えない不安は忘れることができません。しかし、少しずつではあっても確実に前へ歩みを進め、その涙、嘆き、悲しみを、「新たな可能性」「未来への輝き」へと変えていくことが、私たちの大きな使命ではないでしょうか。

東日本大震災津波は、多くの教訓を私たちに残しています。困難に直面しても諦めることなく自ら考え行動する力の大切さや、つながり(絆)の重要性などです。この教訓を県全体で共有し、生かしていく必要があります。

あの震災津波を決して忘れることなく、そしてその教訓を本県の教育の根幹に据え、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県を挙げて「いわての復興教育」に取り組みます。

平成25年2月 岩手県教育委員会 教育長 菅野 洋樹

いわての復興教育

東日本大震災津波の発災から8年が経ちました。

私たちは、東日本大震災津波を決して忘れることなく、本県独自の教育活動である「いわての復興教育」の推進を通じて、郷土を愛し、岩手の復興・発展を支える人材の育成に取り組んできました。

震災後の様々な困難の中で、本県の子どもたちは、地域に育てられ、地域の良さを知り、人の温かさを感じながら岩手の未来を支える人材として確実に育っています。

教育をめぐる環境は大きく変化してきていますが、自分の夢や希望、未来に向かって力強く進んでいこうとしている子どもたちは、岩手の未来・希望であり、岩手の宝です。

地域に根ざし地域を支えていこうとする人材、広い世界に羽ばたこうとする人材、それぞれの夢の実現を支えていくことが岩手の教育に求められています。様々な可能性を持った子どもたち一人ひとりが、目を輝かせながら未来に向かって夢や希望を実現し、将来にわたって岩手県との繋がり、絆を大切にしていけるよう、「いわての復興教育」を今後も推進します。

平成31年3月 岩手県教育委員会 教育長 高橋 嘉行

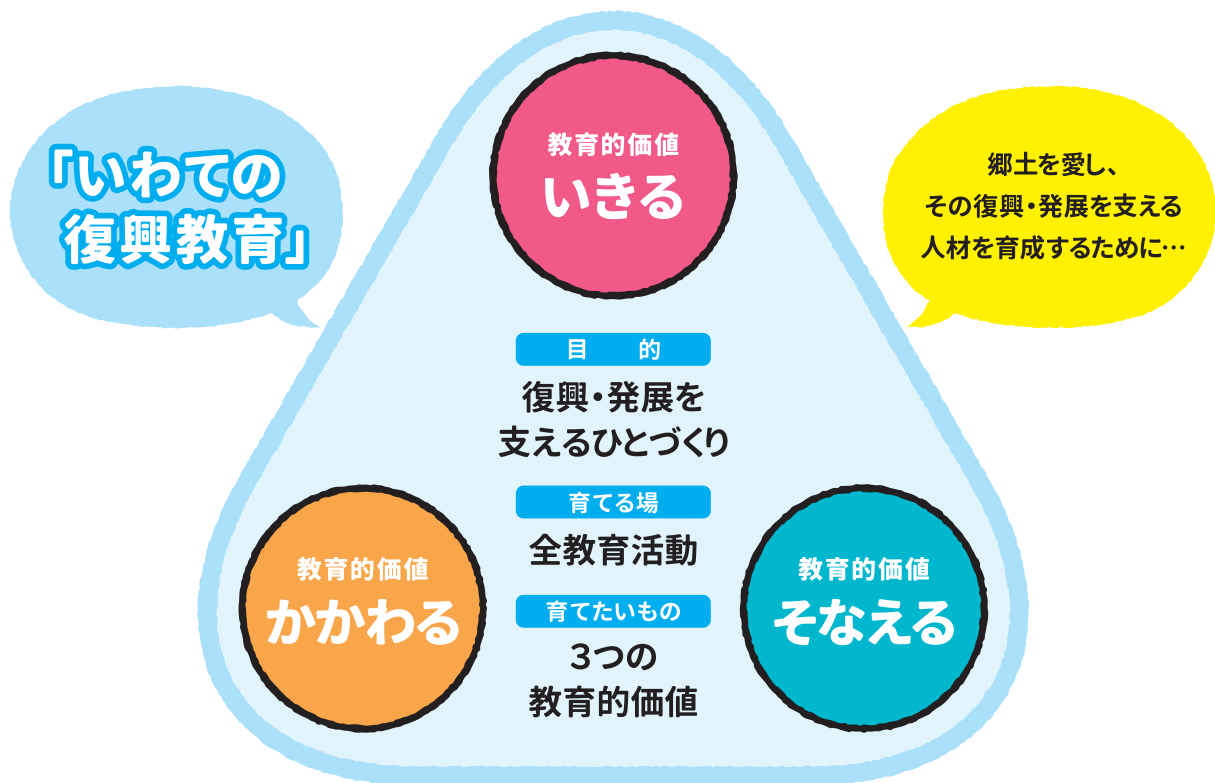
「いわての復興教育」とは

Reconstruction Education Program of Iwate

「いわての復興教育」とは？

「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値（**いきる**・**かかわる**・**そなえる**）を育てること」です。

「いわての復興教育」は、東日本大震災津波で学んだ教訓を学校教育の中に生かし、未来を創造していくために、本県の教育の根幹に据え、力強く生きていく子どもの育成をねらいとしています。一人ひとりの子どもに「生きる力」を育むために、「いわての復興教育」を基盤として、学校教育を進めます。



「いわての復興教育」の理念にかかる留意点

復興教育は、これまでにない **新たなことを始める** ということではない。
また、**リカバリーの教育** でもない。



東日本大震災津波の **体験から得られた3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）**を **育てること** であり、今までの教育を補完・充実させることである。

「いわての復興教育」の意義

Reconstruction Education Program of Iwate

子どもたちには、
将来があり、**未来**があり、**希望**があります。

「いわての復興教育」の意義

子どもたちが、「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造すること」ができるように、県内全ての学校で取り組むことに大きな意義があります。



震災津波の教訓から 学んだことを生かす

震災津波から、命の大切さ、自分の存在、心身の健康、人や地域とのつながり、自然との共生、社会への参画、防災や安全など多くの教訓を再認識できました。

この経験や教訓を学びに変え、後世に語り継いでいくとともに、本県の教育の根幹である「いわての復興教育」は、岩手だからできる教育、やるべき教育です。



どんな時でも、 生き抜くための力を身に付ける

人は、自然と共に社会の中で生きている以上、いつ、どんなところで、どのような状況で災害に遭遇するかわかりません。いかなる場面でも、その瞬間において自分の命は、自分で守らなければなりません。

一人ひとりの子どもが、自分で情報を把握し、主体的に判断できる力を身に付ける必要があります。



「いわての復興教育」の成果

児童生徒の学びは学校を越え、**地域全体**に広がりを見せています。
また、児童生徒の学びを支えようと**多くの大人が力を合わせる**ことにより
新たな地域の姿が構築できます。



震災津波の教訓を学びに生かすことにより、子どもたちや学校、地域の実情に応じた教育活動を展開することができます。

自校の復興教育を推進するにあたり、教職員の創造性や協調性を生み出すことができます。

同校種間、幼・保、小・中・高・特別支援学校の異校種間の連携が、強化できます。

成果

「いわての復興教育」の定着

- 学校教育に位置付いている。
- 年間計画が作成されている。...等

「いわての復興教育」の広がり

- 教科指導
- 健康教育
- 防災教育
- 地元学
- 道徳教育
- ...等

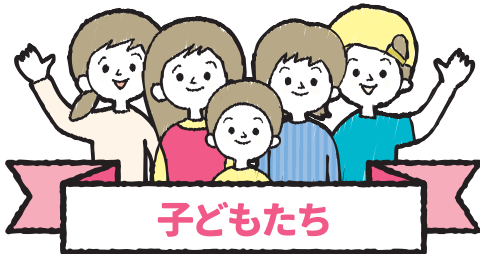
「いわての復興教育」に取り組んだ学校の変容

- 子どもの主体性を重視
- 家庭・地域との連携を重視
- 教科横断的な視点からのカリキュラム・マネジメント
- 相互的な学び ...等

「いわての復興教育」に取り組んだ先生たちの変容

- 子どもたちを多様な視点で見るようになった。
- 教員の創意工夫を生かす機会が増えた。
- 自校や他校・異校種間と協力する機会が増えた。...等





子どもたち

震災津波の教訓から学ぶことにより、生きていく上で直面する課題を乗り越えて行くための命の大切さや人・地域とのつながり、安全などについて、実際に活動して「できる」につなげることができます。

成果

「いわての復興教育」に取り組んだ子どもたちの変容

- 命の大切さについて真剣に考えるようになった。
- 自分自身で心の健康を維持できるようになった。
- 友達や地域の方々と協力できるようになった。
- 地域の歴史や文化、自然について考えるようになった。
- 災害や防災への理解や意識が高まった。
- 自主的にボランティア活動を行った。...等



家庭・地域

学校と連携した活動が推進され、家庭・地域で命を守る意識と技能を高めることができます。

子どもたちが地域の活動に参加したり、貢献したりすることによって、学校を核とした地域づくりにつながるすることができます。

成果

「いわての復興教育」による家庭・地域との連携の強化

- 「まちあるき」等、地域のよさに気づく取組が増えた。
- 家庭・地域の方々の参画による取組が増えた。
- 地域の防災訓練に参加する機会が増えた。...等



関係機関・団体等

関係機関・団体等との連携が、子どもたちの成長を支えるとともに、連携・協働することで多様な活動の展開が期待できます。

成果

「いわての復興教育」による関係機関・団体等との連携の強化

- 盛岡地方気象台、岩手河川国道事務所等の活用が増えた。
- 岩手大学、岩手県立大学等との連携が増えた。
- 自治体の関係部局と連携する機会が増えた。
- 産業界と連携・協働する機会が増えた。

「いわての復興教育」の成果から…

「カリキュラム・マネジメント」、「社会に開かれた教育課程」を
先行実施していたことがわかります。

「いわての復興教育」の推進ポイント

Reconstruction Education Program of Iwate

「いわての復興教育」の確かな推進

「いわての復興教育」は、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」を目的として、震災津波の教訓から得られた教育的価値(いきる・かかわる・そなえる)を具体化して、現代的な教育課題に対応し、これまでの教育活動を補完・充実させます。



震災前からの目的

「知・徳・体」を備え
調和の取れた
人間形成(ひとづくり)

理念

どのような時代、環境であっても、たくましく立ち向かい、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていくために、岩手の未来を担う「人材育成」が重要です。

補完
充実

「いわての復興教育」の目的

郷土を愛し、その復興・発展を支える
人材の育成(復興・発展を支えるひとづくり)

理念

震災津波を乗り越え、語り継ぎ、未来を創造していくために、10年後、20年後のいわての復興・発展を支える子どもたちを育成することが、岩手の教育の使命です。

推進ポイント

- ふるさとへの誇りや愛着を育てる取組が充実します。
- 教科等による学びを見直し、充実します。
- 家庭・地域、学校間、関係機関・団体等と連携します。
- 日常生活とのつながる取組が充実します。

「いわての復興教育」の教育的価値

Reconstruction Education Program of Iwate

震災津波の体験からクローズアップされた教育的価値

(いきる・かかわる・そなえる)を再整理しました。

1 いきるについて

- 命の大切さや自然や畏敬の念に関する事。
- 心のあり方、これからの生き方に関する事。
- 心のサポートに関する事。
- 体力の維持・増進など、身体の健康に関する事。



2 かかわるについて

- 家族の絆や家族の一員としての喜びに関する事。
- 互いに助け合ったり、思いを寄せ合ったりする仲間や地域の方々に関する事。
- 災害後の支援活動における県内外や各国間とのつながり(絆)に関する事。
- 地域づくりに関する事。
- 自然とのつながりに関する事。

3 そなえるについて

- 震災津波体験(情報・ライフラインの途絶等)や科学的知見・防災リテラシーを踏まえた防災に関する事。
- 災害時の行動に結びつく判断に関する事。
- 災害を想定した日頃の備えに関する事。
- 非常時に生き抜く知恵と衣食住の技能に関する事。
- 災害について学ぶ事。



教育的価値と具体の21項目一覧表

「いわての復興教育」を推進するために、
3つの教育的価値と具体の21項目を見直しました。
 「いわての復興教育」は、これらに基づいて取り組みます。

子どもたちが、「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する」ために必要な3つの教育的価値と具体の21項目は、次の一覧表のとおりです。地域の実情等を踏まえ、学校独自の「項目」を加えて設定することもできます。



5項目

① かけがえのない生命

全ての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にす。

② 自然との共生

自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念を持ち、自然と共に生きることについて考える。

③ 価値ある自分

どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。

④ 夢や希望の大切さとやり抜く強さ

夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、どんな状況においてもたくましく生きていくという強い意志と態度を養う。

⑤ 自分の成長

自分の成長や生活が多くの人の支えで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにする。

⑥ 心の健康

つらいことや悲しいこと、環境からくるストレスなどを感じた時の対処方法を学び、自分自身で心の健康を維持する。

⑦ 体の健康

周囲の環境を理解し、状況に合わせて安全に気をつけて遊んだり、運動したりする。

かかわる

⑧ 家族のきずな

安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆を大切にす。家族の一員として、自分の役割を果たす。

⑨ 仲間とのつながり

互いに支え合う仲間をつくり、友情を大切にす態度を養う。

⑩ 地域とのつながり

幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会の人の思いを知り、地域への愛着をもつことができるようにす。

⑪ ボランティア・救援活動

他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。

⑫ 自分と地域社会

郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。

⑬ 復旧・復興のあゆみ

震災津波等の自然災害で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。

⑭ 災害に備える地域づくり

次の災害に向けたまちづくり、地域づくりにかかわる。

そなえる

⑮ 自然災害の様子と被害の状況

震災津波等、自然災害の様子と被害の状況について理解する。

⑯ 自然災害発生のメカニズム

震災津波等、自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。

⑰ 自然災害の歴史

過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。

⑱ 災害のライフライン・地域経済への影響

震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、水、電気、ガス、灯油、ガソリン、道路などの供給・輸送システムやその大切さを理解し、ライフラインが止まった時に対応できるようにす。

⑲ 災害時における情報の収集・活用・伝達

震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、情報の大切さ、情報の収集、選択・判断、発信の方法などについて理解し、活用できるようにす。

⑳ 学校・家庭・地域等での日頃の備え

避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。

㉑ 身を守り、生き抜くための技能

危機を予測(回避)し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。

学校経営への位置付け・組み立て方

「いわての復興教育」を、**学校経営の基本方針**や**経営の重点**に位置付ける際の考え方を示しました。

目標達成型の学校経営に基づき、「いわての復興教育」の目的（郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成）について、学校経営の基本方針で触れます。また、経営の重点には、**教育的価値一覧表**を参考にしながら自校の復興教育を位置付け、教育活動に向けた体制を整えます。

「いわての復興教育」の3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）は、各教科・領域を横断していることから、学校の教育活動全般で育みます。

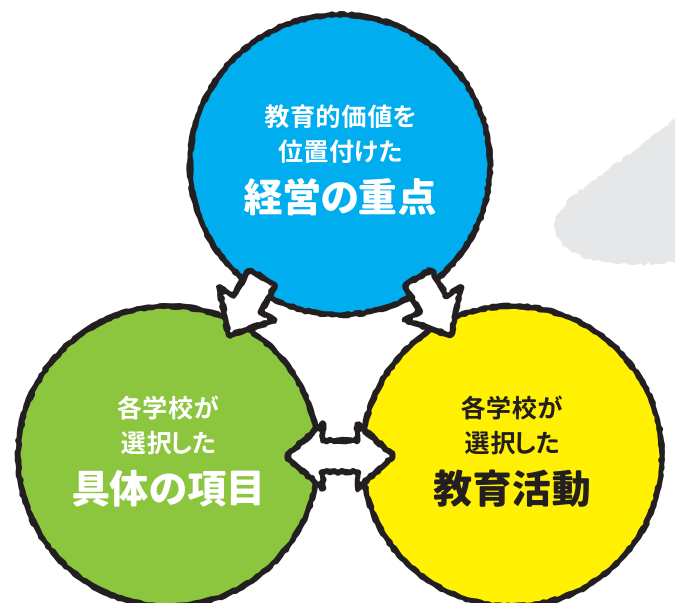
各学校は、重要と判断し選択した「教育的価値」を**経営の重点**に位置付けます。その上で、「**具体的な項目**」と「**教育活動**」とを結び付け、学校、家庭・地域、関係機関・団体等が一体となって「いわての復興教育」を展開します。

各学校は、**PDCAのマネジメントサイクル**を活用し、設定した重点に照らし合わせて評価し、改善を図ります。



基本的な組み立て方

「いわての復興教育」は、「各教科・領域、その他の教育課程外の時間」を使って行われます。その際、「いわての復興教育」の教育的価値一覧表と各教科・領域等の教育活動を照らし合わせ、震災の教訓を後世に語り継いでいくため、副読本、アーカイブ等を活用し家庭・地域、学校間、関係機関・団体等との連携を図りながら組み立てます。





各学校が選択した **具体の項目**

各学校が選択した **教育活動**

(例) A校	3つの教育的価値	いきる	かかわる	そなえる
	具体の21項目	③	⑨・⑪	⑮・⑱
	具体の21項目	⑤・⑥		

教育活動	各教科・領域等の教育活動
学校安全(災害)	各教科、避難訓練 等
心のケア	各教科 等

(例) B校	3つの教育的価値	いきる	かかわる	そなえる
	具体の21項目	④	⑩	
	具体の21項目	⑤	⑨・⑬	

教育活動	各教科・領域等の教育活動
キャリア教育	総合的な学習の時間 各教科等
地域の学習	各教科 等

(例) C校	3つの教育的価値	いきる	かかわる	そなえる
	具体の21項目	①	⑨・⑬	
	具体の21項目	②		⑯・⑳

教育活動	各教科・領域等の教育活動
学校間交流	総合的な学習の時間 各教科等
教科指導	各教科 等

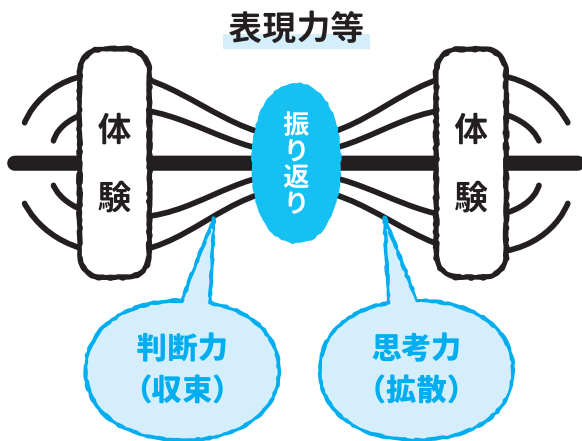
「いわての復興教育」の大切な視点

Reconstruction Education Program of Iwate

大切な視点

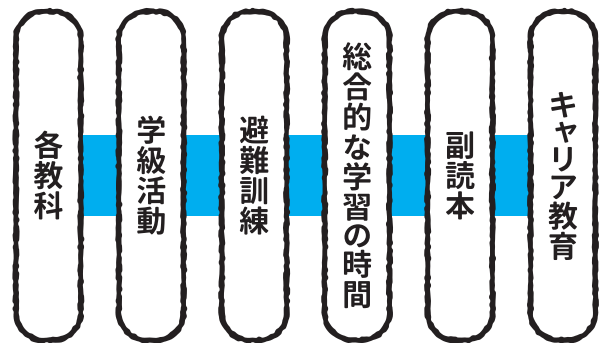
「ひと・もの・こと」との関わりの中から学ぶ

新たな課題に向かって探究していくというプロセスを経ることから、「思考力・判断力・表現力」の育成につながり、日常生活のどんな場面に遭遇しても対処できる対応可能な力となります。



組織的・有機的指導

各学校の教育活動として組織的に取り組むとともに、目標達成に必要な教育内容を教科横断的な視点で有機的に指導する。



学習や活動等をつなぐことで、復興教育で目指す能力・態度を育成!

学校の実情に応じた内容

子どもたちの心身の状態、学校や地域のおかれている状況や環境及びニーズを踏まえ、学校、家庭・地域、関係機関・団体等と連携し、ふるさとへの誇りや愛着を育てる取組を盛り込む。

連携・協働



地域

- 地域の活性化!
- 地域住民のつながりを強化!

学校

- 地域のよさを再発見!
- 体験活動の充実!
- 学びの質の向上!



「いわての復興教育」の指導構想

Reconstruction Education Program of Iwate

指導の構想

「いわての復興教育」の推進については、今まで積み上げてきたものを整理し、計画的かつ組織的な取組を行います。

教育活動の展開は、「どの時期(単元)に、どれだけの時間を使って、どのような教育活動を展開するのか、また、その活動を通して、どの程度まで子どもたちの学びを高めたいのか、その結果どうなったか」という指導の構想をもって取り組みます。



教育活動の展開

各学校では、「何のために」
「どのような力を育てたいのか」
「そのための教育活動は何がよいか」を十分に検討し、共通理解を図る。

どの時期(単元)に

(例)従来の社会科見学を基盤に

どのように

(例)事業(震災学習列車活用スクール等)を活用

どうなればよいか

(例)ふるさとへの誇りと愛着の醸成

必然性をもって、学んでいけるように
「しかけ」をする。



地域とのつながりの必要性

Reconstruction Education Program of Iwate

地域への理解を深め誇りと愛着をもった児童生徒の育成 ～地域と学校がパートナーとなって～

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、次代を担う児童生徒の健やかな成長のためには、学校と地域（高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等）が相互にパートナーとなって社会総掛かりで教育の実現に継続的に取り組むことが不可欠です。

そこで、本県では今後、地域と学校がより一層目標共有に努め、学校運営に地域住民や保護者等の声を積極的に生かして一体となった学校づくり（地域とともにある学校づくり）を進め、具体的に地域と学校が連携・協働して行う多様な「地域学校協働活動」を通して、子どもたちの教育活動が充実するように取り組んでいきます。

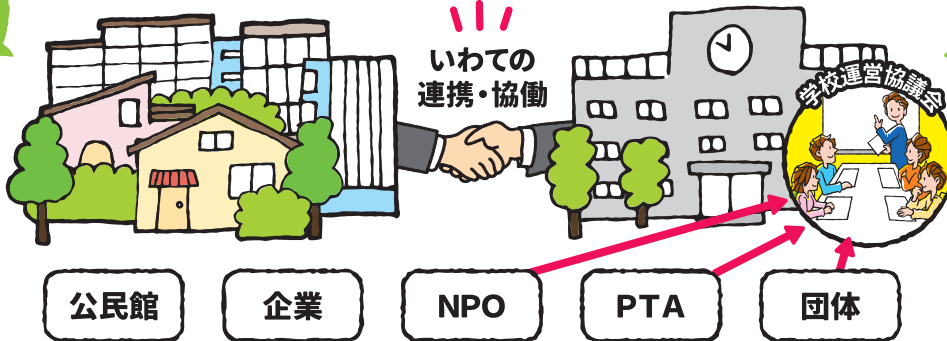
また、地域住民や保護者等が学校教育活動への多様なかたちで参画することにより、地域住民や保護者等の自己有用感や生きがい、コミュニティづくりにもつながることが期待されています。



いわての復興教育

地域
(社会教育)

● 地域の活性化！
● 地域住民の
つながりを強化！



学校
(学校教育)

● 地域のよさを再発見！
● 体験活動の充実！
● 学びの質の向上！



「いわての復興教育」のあしあと

Reconstruction Education Program of Iwate

みなさんの言葉から、「いわての復興教育」を振り返ります。

あと2、3年待ってろ！
また養殖体験させてやっから。

お世話になっている漁師さんがくれた言葉

支援する側、される側
という関係ではなく、
未来をつくる仲間になりましょう。

学校間交流での生徒の言葉

先生方が助けてくださった命を、
一生懸命育てていきます。

卒業式でのお母さんの言葉

町が復興したら、
今度は支援ではなく、
以前のように
遊びに行きたい。

交流会後小学6年生の言葉

地域の人々と協力して
「町づくり」をしたい。
「今」を頑張りたい。

震災時中学2年生の言葉

復興はまだまだかかる。
震災をずっと忘れない
町にしたい。

震災時中学1年生の言葉

子どもたちから
お年寄りまで
仲良く交流できるまちに
なってほしい。

震災時小学3年生の言葉

自分たちが
地域の行事などに加わり、
頑張っている姿を見せることで
地元の方々を明るく、
笑顔にしたい。

震災時小学3年生の言葉

あの日を決して忘れない。
未来を決して諦めない。
見守ってください。

追悼式 本県代表の言葉

子どもたちが、
地域のよさを知り、
人の温かさを感じ、そして、
「地域に育てられた」という
感覚を育てたい。

校内研究会で担任の先生の言葉

私には、なりたい仕事
が2つあります。
1つは、病院の先生です。
もう1つは、学校の先生です。
学校の先生になって、
この震災津波のことを
子どもたちに伝えたいです。

学校間交流での児童の言葉

海と緑に恵まれていた、
自然豊かな村の実現に向け、
地元へ貢献していきたい。

震災時小学6年生の言葉

自分たちのような若者が
中心となり、復興へ進んで
いけるよう頑張っていきたい。

震災時年長の言葉

私たちは
「いわての復興教育」による
さまざまな活動や学習を通して、
命の大切さや地域の
すばらしさを知り、
生き方について考える機会を
いただいています。

児童生徒実践発表会後高校2年生の言葉



「いわての復興教育」の可能性

Reconstruction Education Program of Iwate

「いわての復興教育」の可能性

OECDの「キー・コンピテンシー」、国連の「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、「広い能力概念」に基づいています。「いわての復興教育」の教育的価値(いきる・かかわる・そなえる)につながる考え方です。

「キー・コンピテンシー」は、「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力(個人と社会との相互関係)」、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力(自己と他者との相互関係)」、「自律的に行動する能力(個人の自律性と主体性)」の3つのカテゴリーに分類されています。

震災当時の学校や地域には、いろいろな人たちと主体的にかかわり行動し、限られた人的・物的資源を最大限に活用して「生き抜く姿」がありました。

いろいろな人たちとかかわる姿は、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」、主体的に行動する姿は、「自律的に行動する能力」、限られた人的・物的資源を最大限に活用する姿は、「社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力」につながる力が備わっていたと考えられます。

「ESD」は、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」です。そのために、「関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むこと」の必要性を伝えています。

「いわての復興教育」の目指す、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材育成」は、「ESD」の「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と共通しています。他にも、総合的に取り組むこと、体験、体感を重視して、探求や実践を重視すること等「いわての復興教育」の取組につながる内容が多くみられます。

世界的に求められている教育は、私たちが東日本大震災津波の教訓から学んだ3つの教育的価値(いきる・かかわる・そなえる)による「いわての復興教育」の考え方であるともいえます。

さらに、次のことも期待できます。

- 「いわての復興教育」は、他者と協力する力やコミュニケーション能力など数値化が困難な力の育成に有効で、「生きる力」、「生き抜く力」の育成につながる。各教科の学習の深化へのつながりも期待できること。
- 「いわての復興教育」により、岩手県内の学校は、広く社会に開かれており、地域とともにある学校、学校を核とした地域づくりにつながる。



「いわての復興教育」についての参考資料

- ◆「いわての復興教育」プログラム 平成24年2月 岩手県教育委員会
- ◆「いわての復興教育」プログラム(改訂版) 平成25年2月 岩手県教育委員会
- ◆「いわての復興教育」実践事例集 平成25年3月 岩手県教育委員会
- ◆「いわての復興教育」資料集 平成25年3月 岩手県教育委員会
- ◆東日本大震災の記録
 - 未来を信じて いま歩き始める 平成24年2月 岩手県小学校長会
 - 明日を見て 前を向いて 平成24年3月 岩手県中学校長会
 - 『祈り』東日本大震災の記録と手記 平成25年1月 岩手県高等学校長会
 - ～岩手県沿岸被災高校と支援学校～ 岩手県高等学校副校長協議会
- ◆復興教育の観点からの教育の再構成
 - －「いわての復興教育」の挑戦－ 大桃敏行、村上純一
梅澤希恵、柴田聡史
宮口誠矢
- ◆「いわて震災津波アーカイブ ～希望～」 岩手県復興局
- ◆H29・30年度改訂学習指導要領 文部科学省
- ◆OECDにおけるキー・コンピテンシー 文部科学省
- ◆ESD 持続可能な開発のための教育 文部科学省

関連Webサイト



「いわての復興教育」プログラム(第3版)

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkyou/fukkou/index.html>



「いわて震災津波アーカイブ ～希望～」

<https://iwate-archive.pref.iwate.jp/>

「いわての復興教育」プログラム(第3版)

発行／平成31年3月

著作権保有者

岩手県教育委員会

発行

岩手県教育委員会事務局学校調整課 産業・復興教育担当

所在地

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1
Tel.019-651-3111(代表)

印刷

川口印刷工業株式会社

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために

「いわての復興教育」 プログラム

Reconstruction Education
Program of Iwate



第3版

発行/平成31年3月
岩手県教育委員会